川西町小松の商店街変化とその背景についての研究

鈴木　玲哉

商店街は地域の人々の生活を支えるだけでなく、交流の場でもある重要な空間である。しかし、現在多くの商店街がシャッター街化するなど衰退に向かっている。各地で中心市街地活性化に向けた取り組みが行われているが、多くの商店街で衰退を食い止めることができていないのが現状である。

本研究の目的は、山形県川西町小松の商店街の変遷を明らかにし、商店街と町の相互の関係から衰退の原因を明らかにすることである。そのための方法として、享和年間の古地図、国土地理院の地図、住宅地図、空中写真、同一地点で撮影した写真の比較（大正、昭和と現在）や川西町史をはじめとする文献資料を用いて分析を行ったうえで、商店街の方々への聞き取り調査を行った。

その結果、①小松商店街の店舗数・業種数の大幅な減少が明らかとなり、その原因として、大型店の進出といった外的要因だけではなく、経営者が問題の解決を先延ばししてしまうような経営意識を持っていたという内的要因も大きく関わっていたこと、②一方で、長く続いている店では大型店の周辺に移転したり、オンラインショップを取り入れたりするなど経営上の工夫が見られたこと、③小松商店街が昭和の雰囲気を持った街並みを有している理由として、店舗兼住宅が多いことにより昭和後期の建物が形を変えず残ったこと、などが明らかとなった。最後に、2024 年に空き店舗を活用したレトロなカフェ兼バーがオープンし賑わいを見せているが、昭和後期の建物が多く残る小松の街では、昭和レトロな街並みが観光の強みになるのではないか、という考察を行った。